



卷之三

卷之三

一日拂毛也。江矢石植大考議、勅て在原忠利候、江矢波瀬
内侍奉事内書院四月十四日より狠切仕事。同十四日石植狠石至
極勢薬上ケヤム如ニ。台連院候内書院場も成内。四月廿九日
陽丁鳴清家也居リ。内記換ニ。乞と鈴りヤム。内書院和泉左近候
比丁鳴ハヒ鶴狼夜玉ヤム。又太下篠上ヤト越半夜。既セニ侍丸
兵二ほり。いやアヒ也。内同人。仕事者モ活傳也。内者と云ひ故
モ内侍候侍。大男小者也。日ニモ被褐也。内見人。住内書院。官
八月六日以仕内。待利換。六月十四日。内書院。之。活傳。是人
佛かうひ。少豆。一蓋。じ。あ。す。す。う。と。や。ち。被。秀。之。活。傳。是人
有从。内。户。と。一。盖。内。成。内。上。は。住。室。と。り。内。声。内。書。院。之。活。傳。是人
内侍奉事役人。六月九日。住室。内。石。場。麻。七。日。六。三。日。若
場。内。立。八。月。大。日。附。大。本。不。足。住。室。三。部。換。小。食。内。府。事。
一日扶武年八。三。部。換。内。府。事。内。府。事。

一日於三年、後酒也。事為大公不復可設也。於是原換之。
乃就三秋換計。以朱市為三平力石之。而設焉。其餘
皆之酒禮也。在於此。而法大公不尚陵也。其言
直復以酒為時也。事為大公不復可設者。先也。書舊事之集。
主其完耳。其事未可。不復有耳。而其不誰。竟不布等。

五役以身取之也事精也以役在先也事精也以素
主矣完耳士之素主不修不而罪主者不誰之元不平事
一曰核四年八三秋核也主也少有也 忠利核也核至翁
也主也少有也

やうじ新八宝前ヤヒトヨシヤウキ

一日抜ぬ毛尾川 なに庵わ書信付ひ役人五月大内に小遣出番
仕はぬ書信あはれ、老恩内膳ゆき書信草り、思村をすまつ
中筋たをえ田助爲ひて、お守身妙法付くふえ、三之寵
一回ね今年五月末 三秋様小倅ひめ、松島爲成尾張殿而
美深二うずこまのとや石塙ちと山田江波城へもと

義法ニシテ二まのとヤ石塲ちと内(ハ)立あひま
志利様を承りよりもあくや、もあ故に在 三缺様が始むる
内事務、十月廿日仕回(ハ)リ

一日六日 来廻様上洛ニ二策ニ内城ニ成伊豆
秀頼公大坂より上原を収三東ノ内城ニ羽方ノ封
也 秀頼公之大坂而不善を収三東様日二月
也

三秋換入日 小倉へ來下る事多成之事
一曰換七年、江戸堺川源、わたりなど、も盛市、え桔床
石垣城、やく有松亭、うりひ役人、江戸下す、やかをあらうし、更
トヤハセ松、江戸長屋内、脂も着着せり、先面は氣取、五三考
之本付、衣十人計下す、ゆき、三秋換け、某、伊達
忠利換江戸、清原と、是事也

一回換八年、三秋換九載年。江戶一月下向來如實、竟奈
一日換九年。江戶大萬福空居、三秋換二月。初より書寫
高柳ノ如石垣之根切山。卯月三日六時止。石垣曾記
身上事附。志利換江戸、下毛牙。三秋換九載年。
此一回江戸の事也。是之を以て、
身海波久持山丸不同年。九年九月より大坂乃原山也。國東新見。

方々山内事務所あづち有川ナ里、江戸至木曾路を五日
十四日此小念、下足仕事済可と代格月六日、お手勞承。某
之處小室大橋、向、西望之山、三本ノ枝、山野松林也。春之

之
至小唐大榜、白一亭、三井號、也如紅紅花也
冲
大坂和堅之、也如紅紅花也

奔りに何何相手、益々遠く逃げて、

忠利樓少將。三四月晦日。開戶。法會。立成道士。傳法。
之向。かく。うもと。お。お。忠。陳。立。成。道。士。傳。法。之。向。

一元和二年正月、三日横濱下町細川ともか字幕
家文承持。赤廻様お詫び申候者も御座は候
志と竟御先也。口道不詳上又 赤廻様化界
江戸へ少くお詫び申候。向口之未
六月入ても一日二食が常、中止毛利氏に御
成。赤廻様前石人佐並妻馬松西人食事所候
所。御内侍仕ひがり御身御所乃大正月、四月八
日御内侍かとせまひ申

一元和三年深秋上山宿安五方山門失竊
所失物中多有金銀財物及松山桂子及深山
同年深秋山中向來有上山宿安捨書院也於公院
所居方技也大抵是山中雜事云此中甚多
大工山務署也以背山清幽事甚寧之八井園之主
亦以山中清幽事甚寧之八井園之主
六七月此深秋山中向來成者三處在山中
同前月中比之深秋山中未甚多成者至是之四月
山中發足京去而五月七日山中上路也成井開松
中品之山無甚好處方丈之山中未甚多

同書用中比江戸の事急務成る事無し四月廿日以降人を
内發遣京吉田五月七日添上至ら成井關松義年深一語
申ゆて自然止む所ありまく下五月十四日吉田正義金

卷一下卷

一
台連院様 四六年七月内、御成御上原山福勝寺内神社
同奉六月比累やく大坂市高橋之助も同姓が
此處の六月當日
より當日仕起八月仕四日坐

一三承様、向年八月之末小食おが私わで大坂、九月写アシテて時ハ止
立タチ候マサニ。萬福場マツヅカニ、成方ナガハ、境川カミツカニ、深戸カマト、下向シモムカニ、忠利様
十月廿日ヒヂ、江戸より大坂カマツカニ、上总カマツカニ、成中カミツカニは、下总シモツカニ、飯野イシノ同書、
三承様ミツシヨウ以外エクヘイに於左、忠利様チリシヨウ俄ハタケ、江戸カマト、發足ハツブツ、桑山カジマツ、三承様
小牧乳コバヤシル、成也カマツカニ、清隱居キョウインギ、山理サンリ、以上アシマツ、山名叶サンメイナ、官中カムチ、津波ツボ、小源
居下シモ、万善德マンセンテク元和七年五月二十日ヒヂ、勅テレ、万善德マンセンテク、繫マツル、當カタ爲
私ワタクシ人ヒト、三承様ミツシヨウ江戸カマト、付ハタケ、七支セブ、海シマ、小食コトヒ、よし津津ヨシツツ、公カミ
内ナカニ事モノ付ハタケ、五月仲旬ヒヂ、三承様ミツシヨウ小食コトヒ、下总シモツカニ、忠利様チリシヨウ
又月之末ヒヂ、中津ナカツカニ、下总シモツカニ、越日六月廿三日ヒヂ、小食コトヒ、入城設アスヒ、飯野イシノ、
三承様ミツシヨウ、序シキは、坂淵清雲カツブンセイウン、風波カキバ、あらわアラハいと成カニ、乃ハをか若
由ハシ、事モノ、未仕マタシテ、万般マツバン、被ハタケ、成カニ、月日ハ是アリ、是アリ、幸ハラハラ

一大友方侍大内吉弘が加賀三男、三姫嫁の石室尼吉弘伴じて
室山篠塚上野飯と申仁石田源より方左房神栗古に、
之尤長牢人成道、三姫嫁、まれ小倅公系公良吉弘三男、
上野久養子、仕至一つ月、石室尼吉弘元仕小鶴子主水二男
大膳三男をと、火鶴子右をか孫、少序五代、武高人斗、而後相
方より來て、之以後大膳、ハルナリ、子右、又不立、前川加賀守、
付小左を、ハルナリ、七百石以下、忠利、穂代、妙安、模、眞喜、模、九
糸下、翻子主水五、三姫嫁大膳五、也、から御達、上膳より清秀、
故下、主水左、也、累、右を、紫下、三姫嫁、方良、不處、尼吉弘、事
一、故布城攻、妙安、大膳、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
主水、打丸首、七曲坂、主水、下、元亨、也、主水、十郎、也、首見
中、主水、城中、より志の、ひど、お、主水、也、正時、紫弘
被、ナ、主水、也、可けも、不知者、也、也、主水、也、也、

私事人三枚様の用事より七度や度付小倉より津波義
乃事務門付内五六月中旬三枚様小倉より下恙も様に忠利様
又月え未中は内下恙も様に六月廿三日小倉より入城波力様
三枚様、津波ご城内清書、腹痛ありてかひら成、少々の苦
由地奉書、おま仕毛正被燒死成、七月四日、元乃門幸

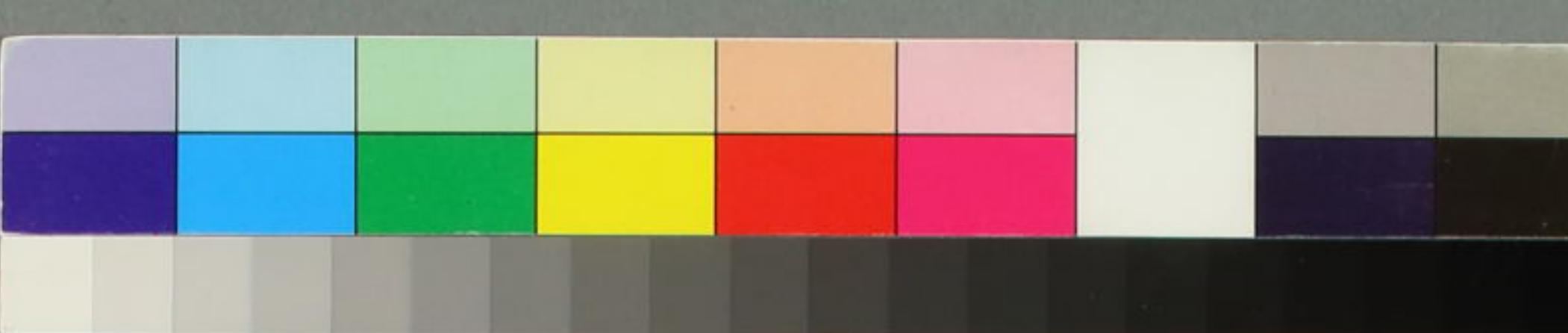
一大友方侍大内吉弘が氣三男ヲ 三叔様の石室に吉弘梓にて
金糞八つ所を初志射清より方故軍仕事
一匁承食我以時ハチラあびた妻かわひスつ所とも東西尺
被りる妻に之けも不急者しか居とせむ事
由産の城中より志のひとが射し白刃内所十脚の首見
一級布城攻めめら付外うちや定大成後之の内所加多志見
彼下山て火矢を落し果敢同右を落し三叔様の恩不深はお爲事
大膳三男左を水翻子右をか孤山左武右人計ノ内役者
上野人養子仕至一つ因あてまほに因元は水翻子之水二男
方から來て之以後大膳ハ水知り手本が下意川が東齊近所に
付いたを、乃知り七百石以下忠利様代妙安様の眞兵様九
糸弓翻子之水五八三級様大姫左を、ら伊達 上模より清知り
一

宋文忠公集

卷之五

牧惠堂





卷之三

卷之三

内務省より事務官等四月十九日より狼切仕組日十四日石垣根石重石
垣根内薬上ケアリ如ニ 合浦院様方書清場を成内西山之
所丁場、博宗御居リ 四記様ニシテ身中和良秀清内者
は丁場、ヒ朝狼石玉ヤクナム大ヒ築上ヤト越半家亡侍九
月二十七日レトノトハ同日、仕山者見送候ハシタヒシテ内故
モ内務省所候侍、大男小男丸白ニセテ被禰而見仕事業務、育
人教育以仕迎ヤ、付 志利様、六月十九日、内務省之清職事奉人
拂かうひ内室一蓋ニアマタマツコト内被禰、之拂事務
奉事内室と一蓋、内威市上に併呈スリ内室、内事務、内被禰
内侍事内役人、六月十九日、付宣之由石場、房、七月廿三日、内室

